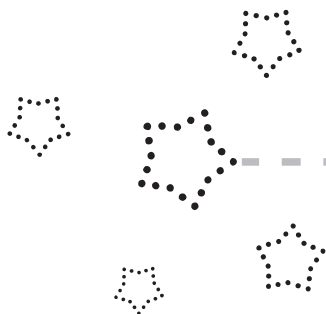


第2部 テーマ別調査結果の分析

第2章

地域による子育ての違い

西村 祐美



首都圏に比べて、地方では働く母親が多い。家族構成をみると首都圏では核家族が約8割を占め、地方郡部では約5割。地方郡部では三世同居が多く、4割弱に達する。「経済的なゆとりがある」の割合は、首都圏ほど高かった。

本章では、地域による子育て生活や母親の意識の違いについてみていきたい。各地域のサンプル数は、首都圏3,069名、地方市部1,743名、地方郡部1,072名である。分析では、08年調査のデータのみを用いる。

はじめに、地域別の基本属性についてみてみよう。まず、母親の就業状況についてみると、首都圏では、専業主婦52.8%、パートやフリー25.9%、常勤13.7%であり、専業主婦が半数を占める(図2-2-1)。一方、地方郡部では、専業主婦38.9%、パートやフリー28.7%、常勤23.5%と常勤の比率が高い。さらに子どもの就園状況別にみると、首都圏の幼稚園では、72.9%が専業主婦であり、常勤の母親はわずか2.7%である。一方、首都圏の保育園では、働く母親(「パートやフリー」+「常勤」の%、以下同)が86.1%を占め、専業主婦は4.0%と非常に少ない。地方ほど、このような差異は少なくなり、地方郡部の幼稚園では専業主婦50.9%、働く母親41.5%、保育園では専業主婦23.3%、働く母親が66.1%である。このように首都圏では、子どもの就園状況ごとの母親の就業状況の違いが大きいことがわかる。

次に、家族構成についてみると、首都圏では「核家族」が79.5%と多く、「三世同居家族」は15.5%である(図2-2-2)。一方、

「三世同居家族」の比率は地方市部から地方郡部にかけて高まり、地方郡部では38.2%にのぼる。

さらに、子どもにとっての父親、母親の年齢についてみると、どちらも首都圏で高かった(図表省略)。父親の平均年齢は、首都圏37.2歳、地方市部36.5歳、地方郡部35.9歳であり、母親の平均年齢は、首都圏35.1歳、地方市部34.4歳、地方郡部34.0歳であった。

また、子どもにとっての父親、母親の学歴をみると、両者とも首都圏で大卒・短大卒(「短期大学まで」+「四年制大学まで」+「大学院まで」(すべて、中退も含む)の%、以下同)が多かった。父親が大卒・短大卒の比率は、首都圏で46.0%に対して、地方郡部では27.8%である(図2-2-3)。また母親が大卒・短大卒の比率も首都圏42.1%、地方郡部30.4%であり、首都圏で高い(図2-2-4)。なお、「専門学校・各種学校まで」の比率は、父親、母親ともに地域による大きな差はみられなかった。

最後に、生活の経済的なゆとりについてみると、「ゆとりがある」(「ゆとりがある」+「多少ゆとりがある」の%)という回答は、首都圏ほど多く(p.191 巻末基礎集計表参照)、首都圏41.2%、地方市部38.3%、地方郡部33.8%であった。

図 2-2-1 母親の現在の就業状況（地域別・就園状況別）

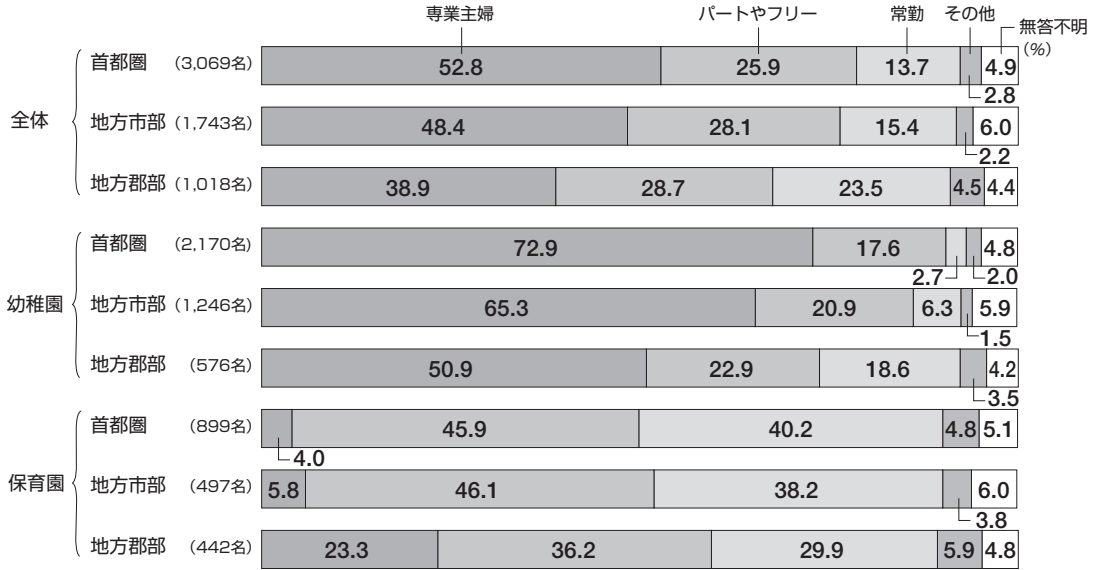


図 2-2-2 家族構成（地域別）

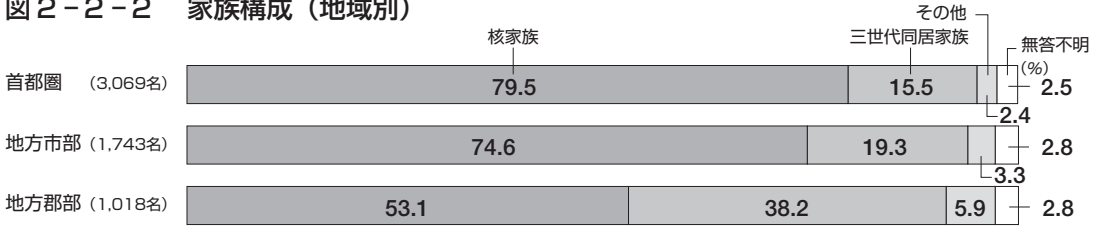


図 2-2-3 父親の学歴（地域別）

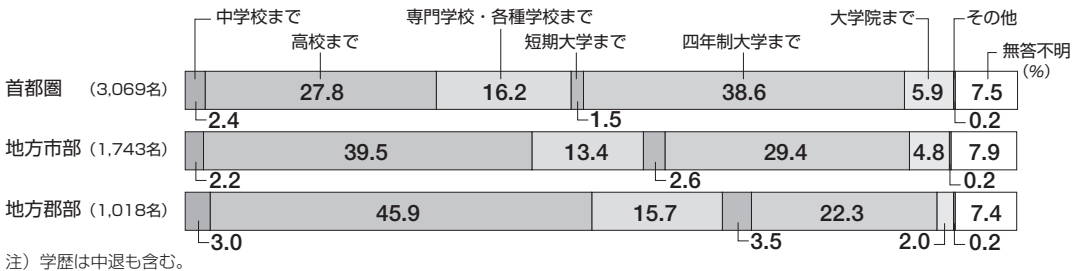
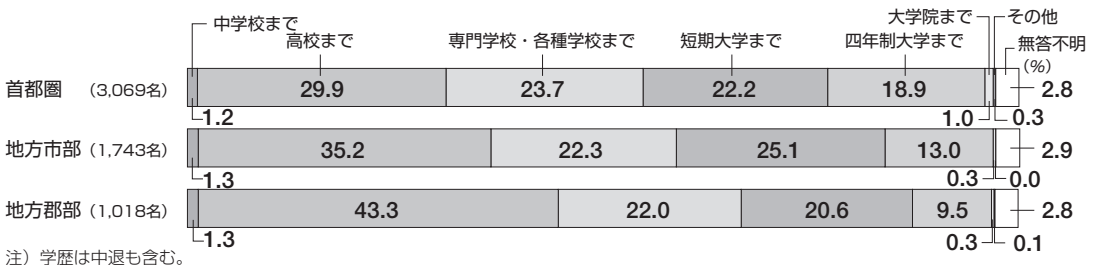


図 2-2-4 母親の学歴（地域別）



第2節

子どもと一緒にすること、 悩みや気がかり

家庭で子どもと一緒にすることをみると、首都圏では、お手伝いや学習に関することを多くしている。一方、地方で多いのは、「家族みんなで食事をする」である。子育ての悩みや気がかりは、地域によって内容が異なり、首都圏の母親で選択数がやや多かった。

●首都圏ではお手伝いや勉強、

地方では家族で食事をする人が多い

家庭で子どもと一緒にすることには、地域によってどのような差があるのだろうか。図2-2-5をみると、「週に3～4日以上」行っている比率（「ほとんど毎日」＋「週に3～4日」の％、以下同）は、首都圏では、「子どもに家事を手伝わせる」が多かった（首都圏53.2%、地方市部50.9%、地方郡部45.0%）。また、首都圏では、家庭での学習の頻度も高い。「週に1～2日以上」している比率（「ほとんど毎日」＋「週に3～4日」＋「週に1～2日」の％、以下同）をみると、「ひらがなやカタカナの学習をする」は、首都圏51.1%、地方市部46.3%、地方郡部45.2%である。「数や算数の学習をする」「英語のビデオ教材を見せたり、CD教材を聞かせたりする」も首都圏で多かった（図表省略）。

また、「絵本や本の読み聞かせをする」を「ほとんど毎日」行う比率は、首都圏25.7%、地方市部24.4%、地方郡部20.4%であり、首都圏と地方市部で頻度が高かった。一方、地方ほどよくしていることは、「家族みんなで食事をする」（首都圏48.0%、地方市部62.1%、地方郡部66.9%）である。

●地域による子育ての悩みや

気がかりの違い

次に、地域による子育ての悩みや気がかりの違いについてみてみよう（図2-2-6）。まず、「食事と食生活について」では、首都圏と地方市部で選択率が高かった。首都圏で

高いのは「お弁当や給食」である。また、首都圏と地方市部で高いのは、「量や栄養バランスを考えた食事の与え方」「食の安全性」であった。一方、地方郡部で選択率が高い項目は、「子どもの食事のとり方」であった。

「日常生活について」をみると、地域による差があったのは、「犯罪や事故に巻き込まれること」「歯磨き・手洗いの習慣」であった。「犯罪や事故に巻き込まれること」は、首都圏ほど高く、「歯磨き・手洗いの習慣」は地方ほど高かった。

「からだと心の成長・発達、性格・態度・癖について」では、「ケガや病気」「いじめ」の選択率が首都圏で高かった。

「遊び・しつけ・教育について」をみると、首都圏ほど高い項目は、「教育費」「習い事や教材の選び方や与え方」であった。一方、地方郡部で高い項目は、「言葉づかい」である。「園での生活」は、首都圏・地方郡部と比べ、地方市部が5ポイントほど低かった。

「母親自身のこと」では、多くの項目で首都圏の選択率が高かった。首都圏でとくに高かった項目は、「これからの生きがいや始めたいこと」「からだ（健康）の悩み」である。一方、地方郡部ほど高いのは、「仕事に関すること」である。

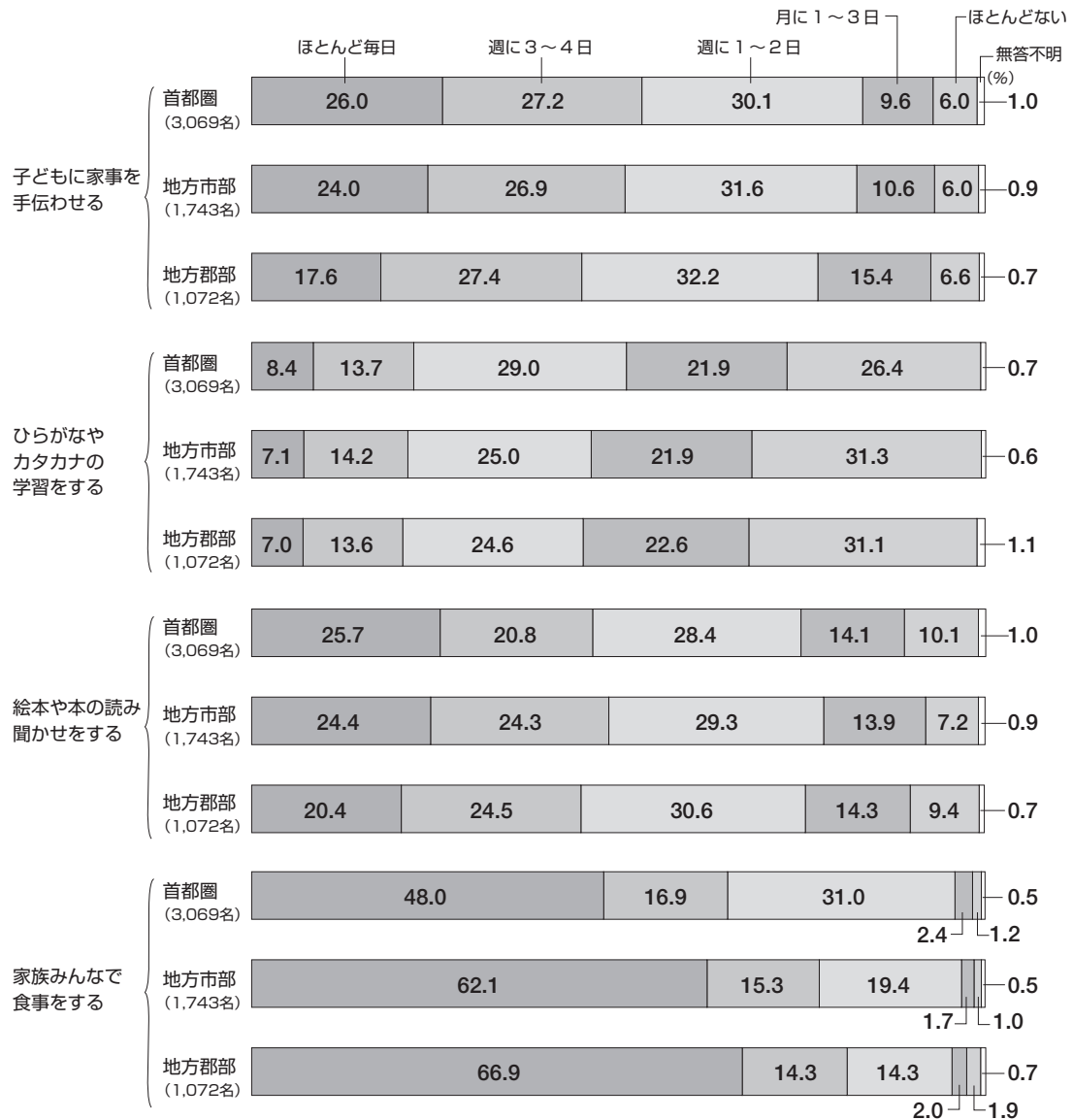
このように子育ての悩みや気がかりを地域別にみると、首都圏の母親は、食事に関することや日常生活、しつけに関する事など、悩みや気がかりの内容が多様であるのに対して、地方では、子どもの食事のとり方や歯磨き・手洗いの習慣、言葉づかいなど基本的な

生活習慣を中心に心配していることがわかる。

また、悩みや気がかりをたずねる項目について平均選択数を比較してみると、首都圏

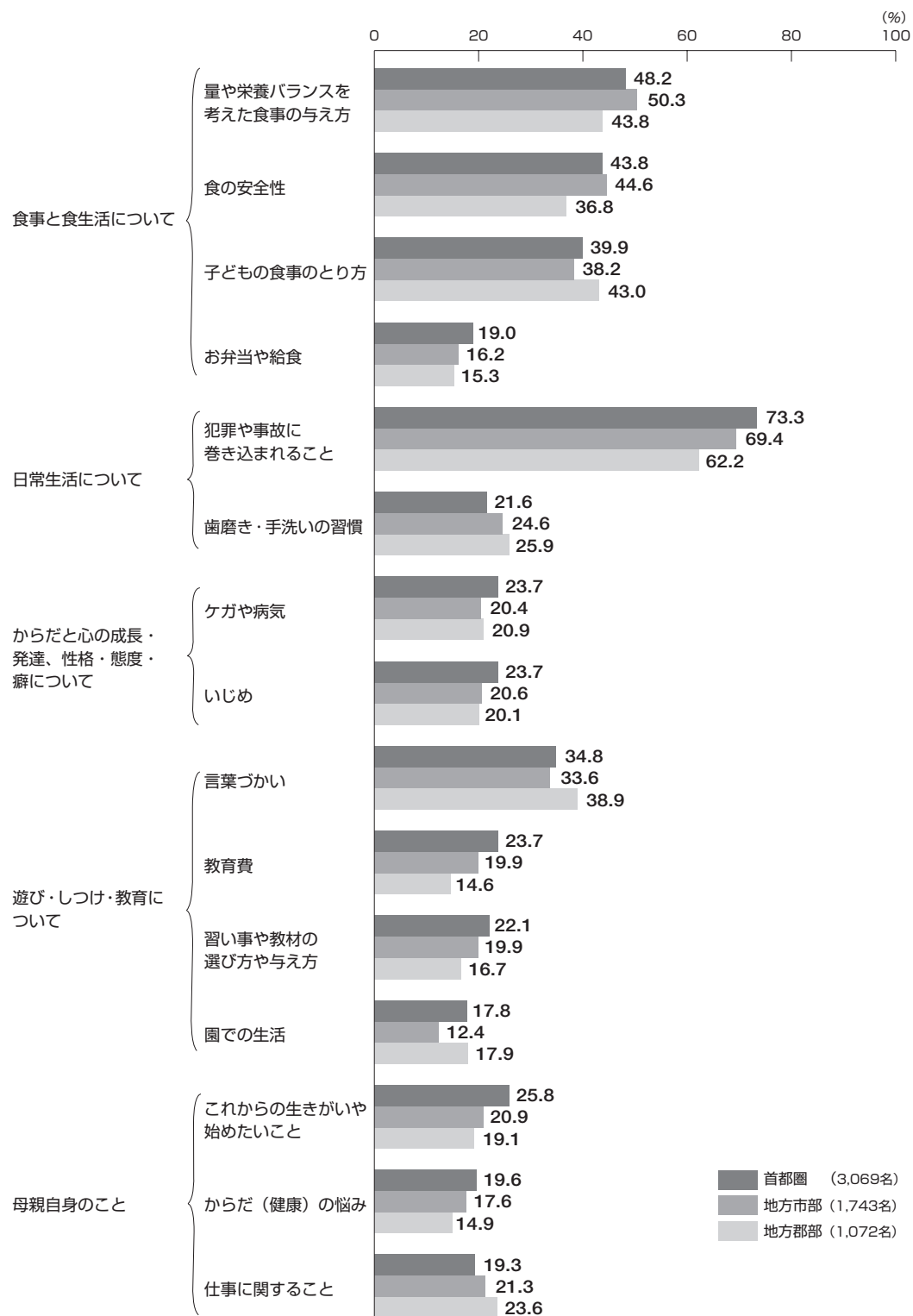
11.2項目、地方市部10.7項目、地方郡部10.5項目であり、首都圏でやや多かった（図表省略）。

図2-2-5 子どもと一緒にすること（地域別）



注) 12項目のうち、4項目を図示した。

図 2-2-6 子育ての悩みや気がかり (地域別)



注) 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、15項目を図示した。

第3節

しつけや教育の情報源

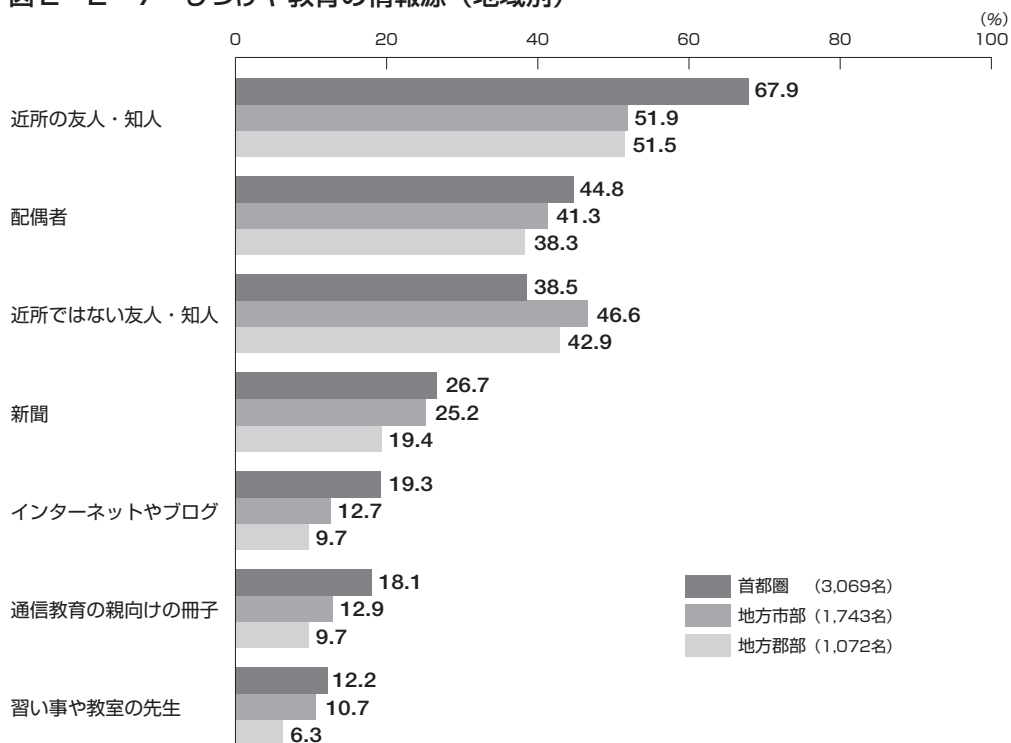
首都圏では、地方に比べて、より多くのルートから情報を収集している様子が見え、とくに「近所の友人・知人」「インターネットやブログ」「通信教育の親向けの冊子」の選択率が高い。一方、地方市部と地方郡部で高いのは、「近所ではない友人・知人」であった。

● 多様な情報源をもつ首都圏の母親

地域別のしつけや教育の情報源についてみると、首都圏では、多くの項目で選択率が高いことがわかる（図2-2-7）。首都圏では、とくに「近所の友人・知人」が67.9%と高く、「インターネットやブログ」「通信教育の親向

けの冊子」といった情報媒体の選択率も高い。ここから、首都圏では多くのルートから情報を収集していることがわかる。一方、地方市部と地方郡部で選択率が高い項目は、「近所ではない友人・知人」である。

図2-2-7 しつけや教育の情報源（地域別）



注) 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、7項目を図示した。

園選びのときにどの園にするか「考えた」母親は、首都圏と地方市部で7割を超える。園で過ごす時間は、首都圏では幼稚園と保育園の差が大きいのに対し、地方郡部では差が小さい。園への満足度は、首都圏と地方市部で高かった。

● 園選びでさまざまな条件を考慮する 首都圏の母親

「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」という質問で、「考えた」（「よく考えた」＋「まあ考えた」の％、以下同）と回答した母親の割合は、首都圏71.7％、地方市部74.5％、地方郡部53.8％であり、首都圏と地方市部で高かった（p.180 巻末基礎集計表参照）。

次に、幼稚園と保育園に分けて「園選びで重視したこと」についてみてみよう（図2-2-8）。まず、幼稚園をみると、首都圏では、「家から近い」「雰囲気が良い」「評判が良い」「少人数で目が行き届く」など多くの項目で選択率が高かった。一方、地方郡部で高いのは「施設や遊具が充実している」「親の通勤に便利」であり、地方市部と地方郡部で高いのは「保育内容・教育内容が良い」であった。

つづいて、保育園をみると、幼稚園と同様に多くの項目で首都圏の選択率が高かった。首都圏で高い項目は、「雰囲気が良い」「給食がある」「長時間あずかってくれる」「評判が良い」などである。地方市部では、「親の通勤に便利」を重視する傾向がみられ、「たくさん遊ばせてくれる」は、首都圏と地方市部で高い。一方、地方市部と地方郡部で高いのは「家から近い」、地方郡部で高いのは、「子どもの友だちと一緒に通う」「少人数で目が行き届く」である。

「園選びで重視したこと」の平均選択数をみても、幼稚園・保育園ともに首都圏の母親が多い（図表省略）。幼稚園では、首都圏6.1項目、地方市部5.9項目、地方郡部5.4項目、

保育園では、首都圏5.5項目、地方市部4.6項目、地方郡部4.4項目である。このように、首都圏の母親は、より多くの条件を考慮して園選びを行っていることがわかる。

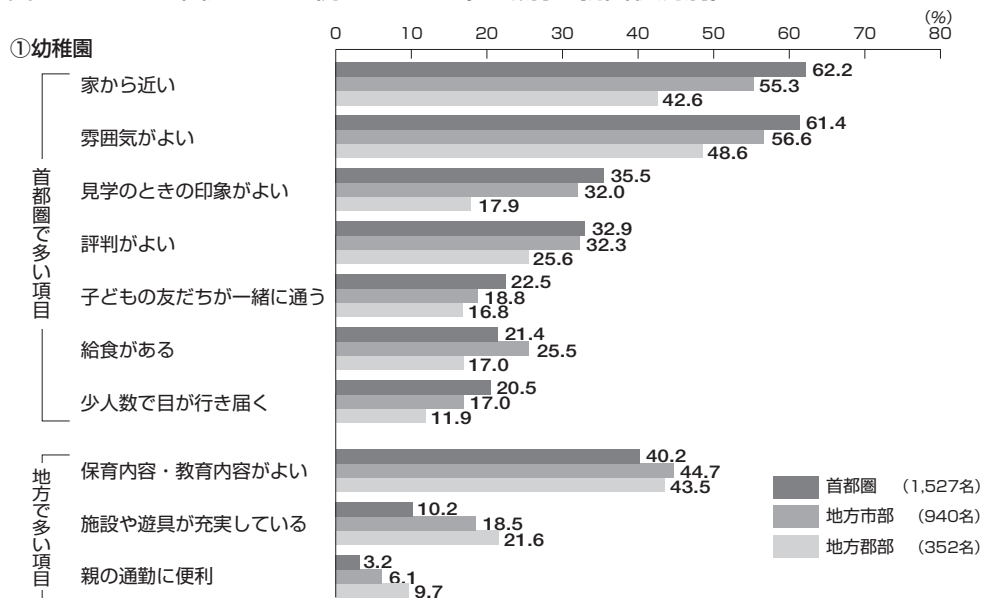
● 園で過ごす時間は、地域によって異なる

各地域ごとに、子どもが園で過ごす時間をみると、首都圏と地方で大きな違いがあることがわかる（表2-2-1）。園で過ごす1日あたりの平均時間を子どもの就園状況別にみると、幼稚園では首都圏5時間10分、地方市部5時間38分、地方郡部5時間44分であり、地方ほど長い。一方、保育園では、首都圏8時間32分、地方市部8時間12分、地方郡部7時間54分であり、首都圏のほうが長い。首都圏では幼稚園と保育園のあずかり時間の差がはっきりと分かれているのに対し、地方ではその差が少ないことがわかった。

● 園への満足度の地域差

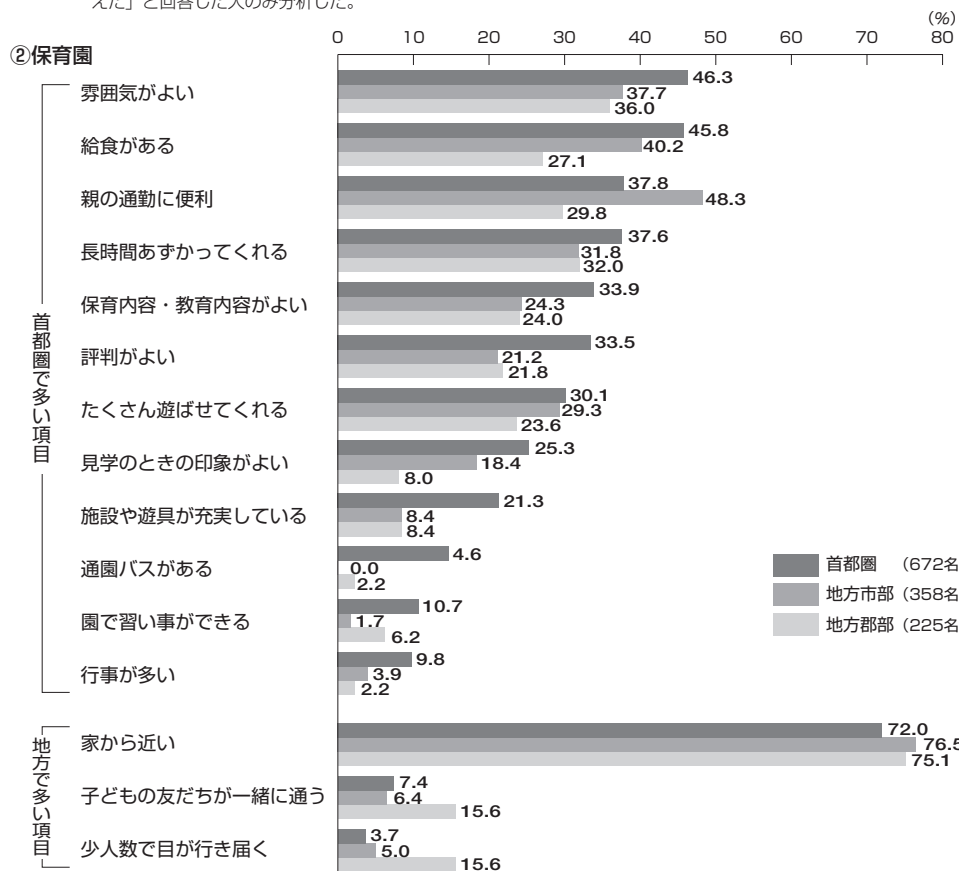
「あなたは、お子様が通われている園の取り組みや指導にどのくらい満足していますか」とたずねたところ、子どもの通っている園に「満足している」（「とても満足している」＋「まあ満足している」の％、以下同）割合は、全体的に85％を超える高い割合であったが、地域別にみると首都圏90.4％、地方市部92.6％、地方郡部86.0％と、首都圏・地方市部で満足度が高かった（図2-2-9）。さらに幼稚園と保育園に分けてみると、地方郡部の保育園で「満足している」の割合が79.4％とやや低かった。

図 2-2-8 園選びで重視したこと（地域別・就園状況別）



注 1) 複数回答。「その他」を含む 23 項目のうち、10 項目を図示した。

注 2) 「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。



注 1) 複数回答。「その他」を含む 23 項目のうち、15 項目を図示した。

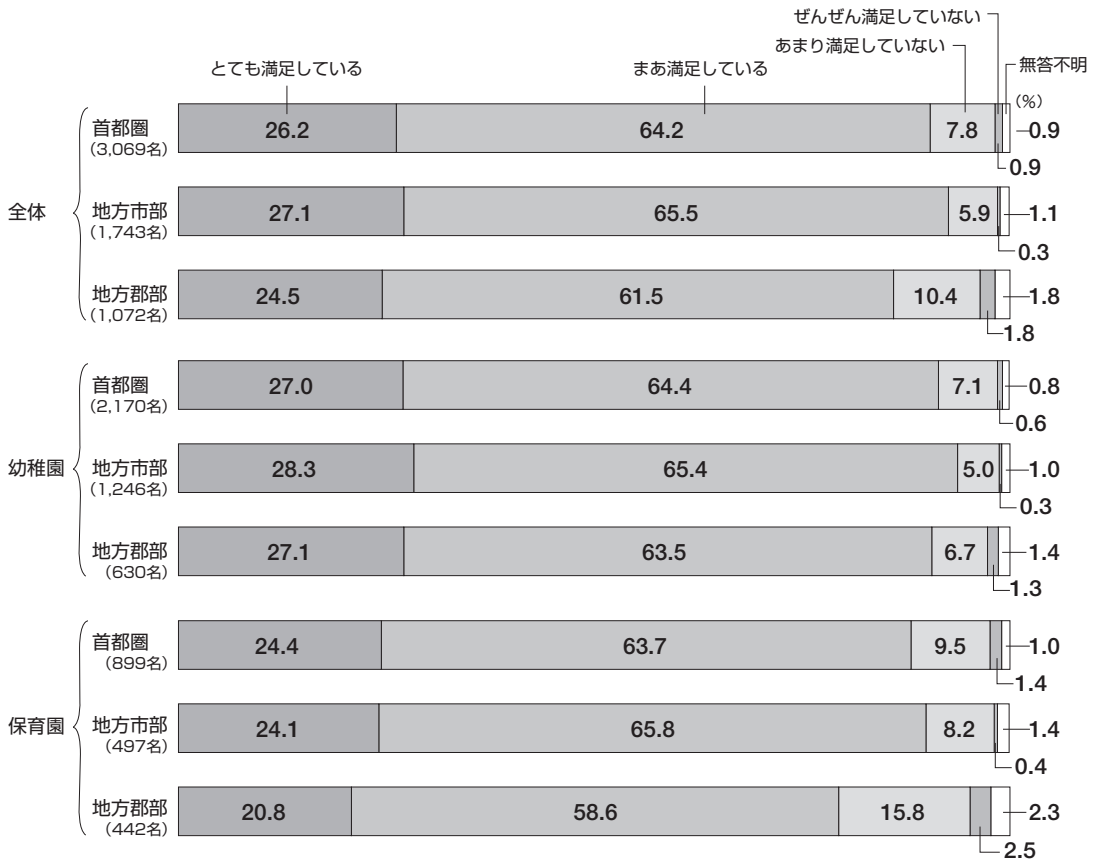
注 2) 「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。

表 2-2-1 園で過ごす時間（地域別・就園状況別）

	幼稚園			保育園		
	首都圏 (2,170名)	地方市部 (1,246名)	地方郡部 (630名)	首都圏 (899名)	地方市部 (497名)	地方郡部 (442名)
平均時間	5時間 10分	5時間 38分	5時間 44分	8時間 32分	8時間 12分	7時間 54分

注) 平均時間は、「4 時間未満」を 3 時間、「4 時間くらい」を 4 時間、「12 時間より長い」を 13 時間のように置き換えて、無答不明を除いて算出した。

図 2-2-9 園への満足度（地域別・就園状況別）



習い事をしている子どもは、首都圏でおよそ6割。1か月あたりの教育費は、首都圏で多く、平均で約10,000円である。また首都圏ではとくに幼稚園児をもつ家庭での教育支出が多く、子どもへの進学期待も高い。

● 習い事をしている子どもは首都圏で多い

習い事をしている子どもの比率は、首都圏62.0%、地方市部46.2%、地方郡部36.9%であり、首都圏で高かった（p.185 巻末基礎集計表参照）。習い事の内容をみると、どの地域でも「定期的に教材が届く通信教育」「スイミングスクール」の割合が多い（表2-2-2）。また、首都圏では、「英会話などの語学教室や個人レッスン」が上位に入っているのに対し、地方市部では、「幼児向けの音楽教室」、地方郡部では、「楽器」がやや多くなっている。

● 教育費の支出は、首都圏の幼稚園児をもつ家庭で多い

教育費についても首都圏で高い傾向があった（表2-2-3）。子ども1人にかかる1か月あたりの教育費についてたずねたところ、

平均金額は首都圏9,982円、地方市部7,750円、地方郡部6,561円であり、首都圏が高かった。さらに就園状況別にみると（図2-2-10）、首都圏の幼稚園児をもつ家庭の平均支出が10,619円であり、その他の地域の幼稚園や保育園と比べても2,500円以上高い。また、どの地域でも保育園児よりも幼稚園児への教育費の支出が高いが、首都圏ではとくに幼稚園と保育園の差が大きく、2,700円程度のひらきがあるのが特徴である。

● 子どもに期待する進学段階の地域差

子どもに期待する進学段階は、地域によって大きく異なっている（図2-2-11）。子どもに大卒以上を期待する比率（「短期大学まで」+「四年制大学まで」+「大学院まで」の%、以下同）は、首都圏61.7%、地方市部49.6%、地方郡部41.5%であり、首都圏で高かった。

表2-2-2 習い事の内容（地域別 上位5項目）

順位	首都圏 (3,069名)	地方市部 (1,743名)	地方郡部 (1,072名)
1位	定期的に教材が届く通信教育 25.2	定期的に教材が届く通信教育 18.1	定期的に教材が届く通信教育 14.4
2位	スイミングスクール 21.0	スイミングスクール 13.1	スイミングスクール 10.4
3位	スポーツクラブ・体操教室 17.9	スポーツクラブ・体操教室 7.5	楽器 7.9
4位	英会話などの語学教室や個人レッスン 9.5	幼児向けの音楽教室 6.1	スポーツクラブ・体操教室 4.9
5位	楽器 5.8	英会話などの語学教室や個人レッスン 5.7	英会話などの語学教室や個人レッスン 3.5

注1) 複数回答。

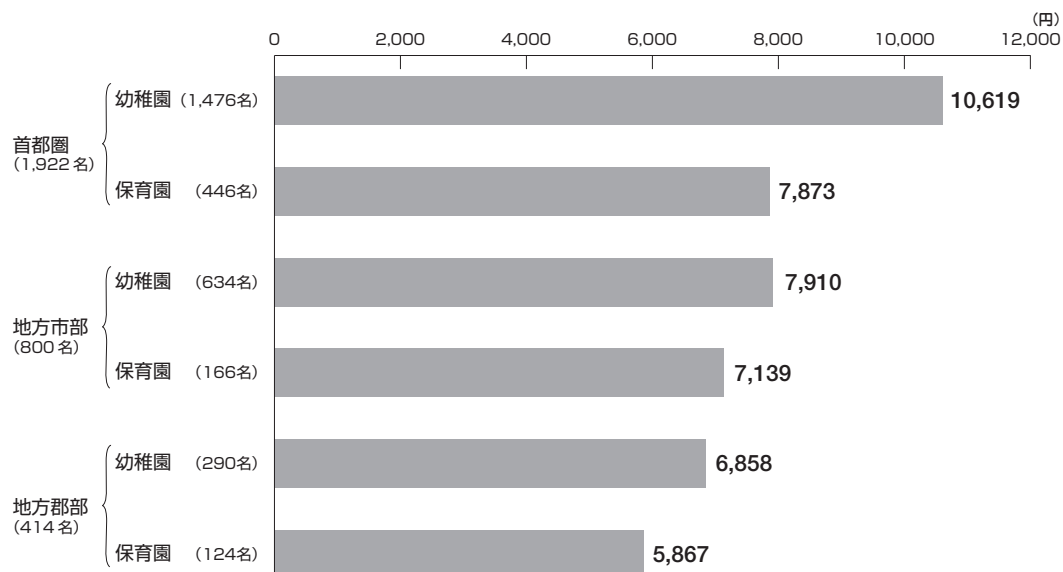
注2) 現在、習い事をしていないと回答した母親を含めたすべての母親の回答を母数としている。

表 2-2-3 1 か月あたりの平均教育費の支出（地域別）

	(円)		
	首都圏 (1,922名)	地方市部 (800名)	地方郡部 (414名)
平均教育費	9,982	7,750	6,561

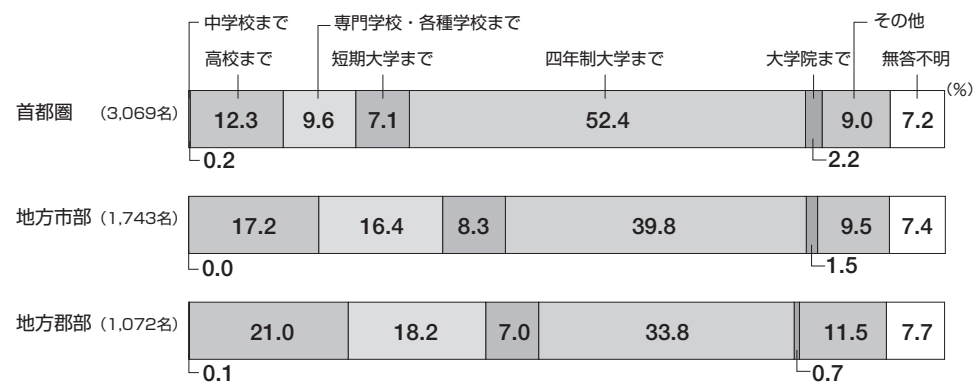
注 1) 1か月の平均教育費は、「2,500円未満」を1,250円、「2,500円～5,000円未満」を3,750円、「40,000円以上」を42,500円のように置き換えて算出した。なお、無答不明は分析から除外した。
 注 2) 習い事をしている、あるいは園での有料課外活動に参加していると回答した人を母数とした。

図 2-2-10 1 か月あたりの平均教育費の支出（地域別・就園状況別）



注 1) 1か月の平均教育費は、「2,500円未満」を1,250円、「2,500円～5,000円未満」を3,750円、「40,000円以上」を42,500円のように置き換えて算出した。なお、無答不明は分析から除外した。
 注 2) 習い事をしている、あるいは園での有料課外活動に参加していると回答した人を母数とした。

図 2-2-11 子どもへの進学期待（地域別）



母親の生活満足度をみると、「母親」としては首都圏で高く、「働く(活動する)女性」としては地方郡部で高かった。子育て意識では、首都圏で「子どもの進路は親が考えるべき」が高かった。子育てをしながら働いていることの負担感、首都圏と地方市部で高かった。

● 首都圏で高い「母親」としての満足度、地方で高い「働く(活動する)女性」としての満足度

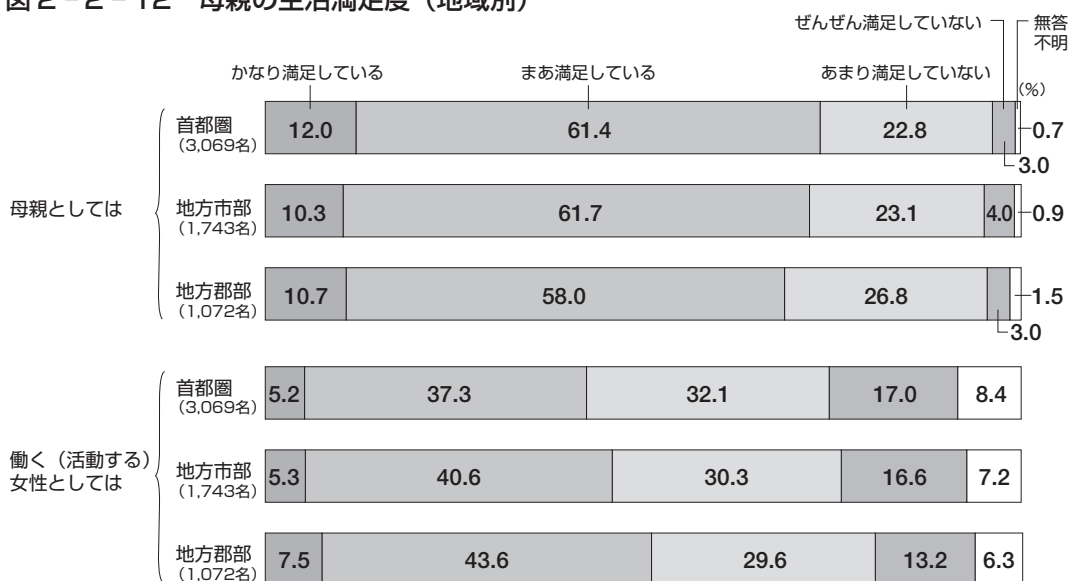
母親自身の生活満足度を地域別にみてみよう(図2-2-12)。「母親」として満足している比率(「かなり満足している」+「まあ満足している」の%、以下同)は、首都圏73.4%、地方市部72.0%、地方郡部68.7%であり、首都圏で高かった。一方、「働く(活動する)女性」として満足している比率は、首都圏42.5%、地方市部45.9%、地方郡部51.1%であり、地方郡部で高かった。

● 地域による子育てに関する意識の違い

次に、子育てに関する意識についてみてみよう(図2-2-13)。まず、子どもの育て方については、首都圏と地方市部では「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうがいい」という意見が多く、「いつも母親が一緒でなくても、愛情をもって育てればいい」という意見は、地方市部から地方郡部にかけて多いことがわかる。

子どもの進路については、「子どもの進路は、将来、子ども自身に任せるべきである」と考える母親がいずれも85%を超えている

図2-2-12 母親の生活満足度(地域別)



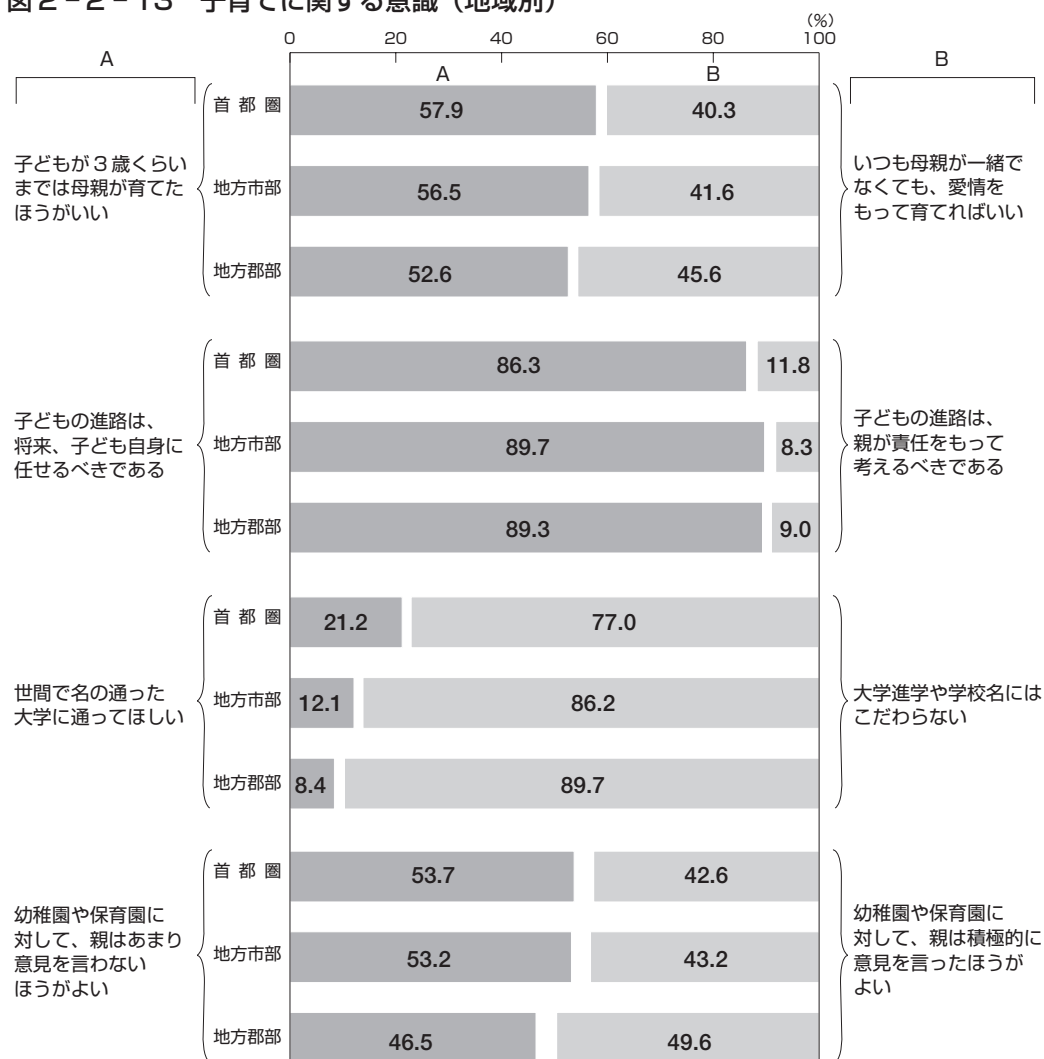
が、その選択率は地方市部と地方郡部で首都圏よりも3ポイントほど高い。一方、首都圏では、「子どもの進路は、親が責任をもって考えるべきである」という意見の比率が他の地域より高い。

次に、子どもへの進学期待についてみると、首都圏では「世間で名の通った大学に通ってほしい」の割合が2割程度であるが、地方郡部では1割に満たない。一方、「大学進学や学校名にはこだわらない」は、首都圏で8割

に届かないが、地方郡部では9割近くが支持している。

次に、園に対する意見についてみると、首都圏と地方市部では、「幼稚園や保育園に対して、親はあまり意見を言わないほうがよい」を選択する割合が地方郡部に比べ7ポイント程度高い。一方、地方郡部では、「幼稚園や保育園に対して、親は積極的に意見を言ったほうがよい」を支持する比率が首都圏や地方市部に比べ高い。

図2-2-13 子育てに関する意識（地域別）



注1) 10対の項目のうち、4対の項目を図示した。
 注2) 無答不明があるため、AとBを足しても100%にはならない。
 注3) サンプル数は、首都圏3,069名、地方市部1,743名、地方郡部1,072名。

● 子育てをしながら働いていることの負担感は、地方郡部でやや低い

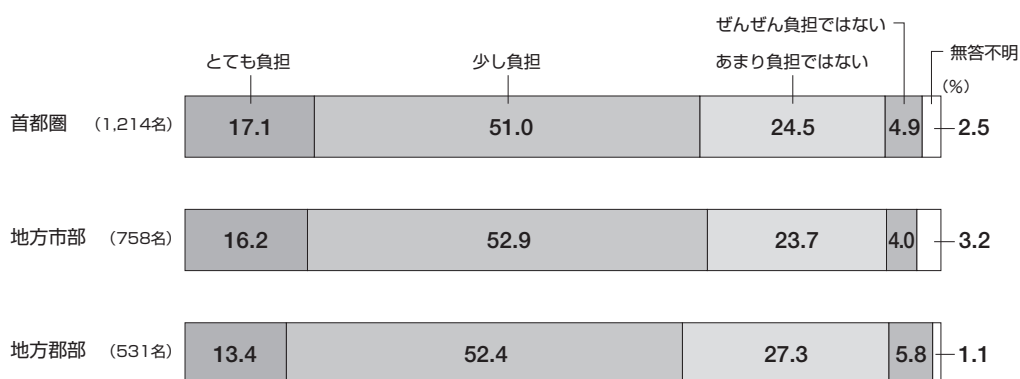
子育てをしながら働いていることの負担感は地域によって差があるのだろうか。子育てをしながら働いていることを負担と感じる母親（「とても負担」＋「少し負担」の％）は、首都圏68.1％、地方市部69.1％、地方郡部65.8％であり、地方郡部でやや低かった（図2-2-14）。母親の就業状況別にみると、地方郡部では、パートやフリー、常勤ともに他

の地域に比べて負担に感じる割合が少なかった（図表省略）。

● 子育ての楽しさは、どの地域も9割を超える

子育ての楽しさ（「とても楽しい」＋「まあ楽しい」の％）は、どの地域でも9割を超える（p.187 巻末基礎集計表参照）。首都圏91.2％、地方市部90.1％、地方郡部91.4％であり、地域による差はほとんどなかった。

図2-2-14 子育てをしながら働いていることの負担感（地域別）



注) 母親（または母親にかわる方）の現在の職業で「パートやフリー」「常勤」と回答した人のみ分析した。

地域間比較からみえること

● 教育への関心が高い首都圏の母親

地域間比較を通してとくに際立ったのが、首都圏の母親の子育てへの熱心さである。首都圏の母親は地方市部や地方郡部の母親と比べて、子どもにお手伝いをさせたり、子どもと一緒に学習をしたりすることが多い。しつけや教育の情報源が多く、子どもが通う園を選ぶときにも多くの条件を考慮している。子どもが習い事をしている割合も多く教育費も高い。子育てに関する意識をみると「世間で名の通った大学に通ってほしい」「子どもの進路は親が責任をもって考えるべき」と考える人が地方に比べて多く、子どもへの進学期待も高い。

基本属性にみるように、首都圏の母親には専業主婦が多く、地方には働く母親が多い。そこで、地域別の結果をさらに母親の就業状況別に分けてみたところ、子どもの進路に関する意識、習い事、子どもへの進学期待、教育費、しつけや教育の情報源、園選びで重視したこと（選択数）は、どの就業状況でも首都圏で高かった。ここから、首都圏の母親は、地方と比べて教育への関心が高いこと、また情報収集に熱心であり、情報を得る環境が整っていることがわかる。

● 首都圏の母親は悩みや気配りも多い

首都圏の母親は、子育てに熱心である反面、子育ての悩みや気配りの内容も多様である。地方の母親は、子どもの基本的な生活習慣を心配しているのに対して、首都圏の母親は、食生活に関すること、事故や犯罪に巻き込まれること、いじめ、教育費、習い事や教材の選び方・与え方、母親自身のことなど多くの項目で選択率が高かった。

● 地方の母親の子育ての特徴

地方市部の数値は、全体的に、首都圏と地方郡部の中間に位置することが多かったため、ここでは地方郡部の母親の特徴について

述べたい。地方郡部の母親は、子どもとすることは何かをたずねたところ、「家族みんなで食事をする」が多かった。子育ての悩みや気配りの選択数は首都圏と比べて少なく、内容は子どもの基本的な生活習慣に関する項目が多かった。教育費、習い事、子どもへの進学期待については、他の地域と比較すると相対的に低かった。子育て意識をみると、「幼稚園や保育園に対して、親は積極的に意見を言ったほうがよい」「いつも母親と一緒になくても、愛情をもって育てればよい」「大学進学や学校名にはこだわらない」「子どもの進路は、将来、子ども自身に任せるべきである」と考える人が首都圏に比べて多かった。このような結果から、地方郡部の母親は、子どもの将来についても子どもの意志を尊重している印象を受ける。しかし、機会という面からみると、しつけや教育の情報源や園選びで考慮できる条件が少なかったり、習い事をさせる場所がなかったりと、求めようとしても手に入れない環境に置かれているとも考えられる。

● 働く母親の子育て負担感と 家族によるサポート

働く母親の仕事をしながら子育てをすることの負担感については、地方郡部に比べて、首都圏や地方市部で負担に感じている比率が高かった。首都圏や地方市部では、働く母親へのサポートを一層充実させる必要があるだろう。地方郡部ほど三世代同居家族が多いが、子どもにとっての祖父母と暮らすことは、働く母親の子育ての負担を軽減することにつながるのだろうか。家族構成別に働く母親の子育ての負担感をみると、首都圏では、三世代同居家族の母親の負担感が核家族と比べて5.8ポイントほど少ないことがわかった。首都圏では、家族のサポートが働く母親の子育ての手助けとなっているようである。